

事務事業マネジメントシート(平成31年度実績と令和 2年度計画)

令和 2年 7月20日更新

事務事業名		道路維持事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政 策	5 都市基盤の健康				所属部	都市建設部	課長名	九重 浩光
	施 策	24 計画的な道路の整備				所属課	建設課	担当者名	中尾 竜也
	施策の柱	67 道路環境の整備				所属班	維持管理班	(内線)	5253
予算科目		会計一般	款 8	項 2	目 2	事業連番 10108	根拠法令	道路法第42条	
終了、開始年度		☐ 31年度で終了 ☐ 31年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	地域からの要望や道路パトロール等で確認した道路補修箇所の路線作業員(正規職員2名、嘱託職員1名)による措置や外注による維持補修工事を実施している。また、ダンプトラック(4t、2t)及びホイールローダーの車両の維持管理や委託による街路樹管理や調整池管理を行っている。また、職員資質向上のため各種土木関係の研修会に参加している。
【業務の流れ】	地域からの要望や道路パトロール等で確認した道路補修箇所は、工法等検討し職員で対応できる箇所は直営により速やかに補修するが、直営で対応できない場合は、測量、設計、工事による入札・発注を行う。その後、工事完了の確認検査、工事費の支払いを行う。
【主な予算費目】	報酬、賃金、旅費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料、工事請負費、原材料費、公有財産購入費、備品購入費、負担金補助及び交付金、補償補填及び賠償金、公課費
【意見や要望】	区からの要望を基本としているが、最近は市民直接の苦情・要望が急増している。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
① 手段(主な活動) 31年度実績(31年度に行った主な活動) (DO)		2年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)	
道路、里道、水路の維持工事及び街路樹の管理委託を行い、幹線道路・生活道路の安全な通行を確保した。 路線作業員(正規職員2名、嘱託職員1名) 車両の維持管理 ダンプトラック4トン車(1台)、2トン車(1台)、多目的ダンプ(1台)、ホイールローダ(1台)		道路、里道、水路維持工事及び街路樹管理委託	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ ア: 維持工事の件数	件	需用費(修繕費・燃料費)の減	
→ イ:			
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
幹線道路・生活道路		→ ア: 市道路線数	本
		→ イ:	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
・安全な通行を確保する。		→ ア: 苦情対応件数	件
・沿線の住環境に配慮した道路になる。		→ イ:	
*③成果指標設定の理由と 2年度目標値設定の根拠			総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
市民からの要望に対する対応、また対応を行った際の整備率を把握する。			0

(2)各指標・総事業費 の推移				単位	29年度 実績(決算)	30年度 実績(決算)	31年度 目標(当初予算)	31年度 実績(決算)	2年度 目標(当初予算)	3年度 予定	4年度 見込	5年度 見込
① 活動指標		ア イ	件		28 -----	25 -----	30 -----	25 -----	30 -----	30 -----	30 -----	30 -----
② 対象指標		ア イ	本		1,257 -----	1,263 -----	1,276 -----	1,270 -----	1,286 -----	1,296 -----	1,306 -----	1,310 -----
③ 成果指標		ア イ	件		309 -----	450 -----	350 -----	469 -----	350 -----	350 -----	350 -----	350 -----
投 入 費 量	業 源 内 訳	国庫支出金	千円									
		都道府県支出金	千円									
		地方債	千円									
		その他	千円	10,922		10,031	10,031	10,031	10,031	10,031		
		繰入金	千円									
	(A)事業費計	一般財源	千円	43,741	57,182	46,218	60,284	45,901	45,835	45,835	45,835	
		(A)事業費計	千円	54,663	57,182	56,249	60,284	55,932	55,866	55,866	55,866	
		(A)のうち指定経費	千円	3,691	3,895	1,494	1,476	334	0	0	0	
	(A)のうち時間外、特勤		千円	124	315	296	279	334	0	0	0	
		正規職員従事人数	人	8	8	6	7	6	6	6	6	
		延べ業務時間	時間	4,420	4,220	2,900	1,570	2,900	2,900	2,900	2,900	
	(B)人件費計		千円	17,485	16,635	11,553	6,221	11,553	11,553	11,553	11,553	
トータルコスト(A)+(B)		千円	72,148	73,817	67,802	66,505	67,485	67,419	67,419	67,419		

事務事業名	道路維持事業	所属部	都市建設部	所属課	建設課
-------	--------	-----	-------	-----	-----

2 評価の部（CHECK）

*原則は31年度の後評価、ただし複数年度事業は31年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①31年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】 要望のあった工事箇所等については迅速に対応し当初の目標を達成した。
	②2年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 市民からの要望が年々多種多様に渡り増加傾向にあり、また厳しい財政状況でもあるが緊急性のある工事、軽微な補修については予算の範囲内で早急に対応を行いたい。
有効性評価	③成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 現状で最適な工法で実施しているので向上の余地はない。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 類似事業は無く、他に手段はない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 経年疲労や大型車の通行並びに通行車両の増加に伴い年々道路の傷みも増えてきており、道路維持についての事業費削減は出来ない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 必要最小限の人数で業務を行っており、削減の余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 道路利用者は特定の人に限らないので、受益者負担は公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 道路や河川の管理は市が行う業務であり、役割分担は適正である。

3 評価結果の総括（CHECK）

要望・通報により緊急性のある工事、軽微な補修については予算の範囲内で早急に対応を行っている。しかし、人口や交通量の増加及び道路施設の老朽化により、今後益々施設再整備や補修予算の増大が予想される。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○																				
	低下																						
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																							